

卓 話 『南インド古典舞踊（バラタナティヤム）の紹介』

卓話講師：巽 幸恵 様



<南インドの日常生活>

- ・手で食べると美味しい南インド料理。
 - ・食事の最後はヨーグルトライスと辛いピクルス。
 - ・お酒は飲まない、買うことも困難。
 - ・肉・魚、それらの出汁を使ったものも一切口にしない人が多い。
 - ・タマネギ、にんにくをあまり食べない。
- など

<神様に一番近い国？>

- ・ヒンドゥー教は多神教。
- ・各家庭にたくさんの神々を祀った祭壇がある。
- ・ヒンドゥー教の暦には神々の記念日、盛大にお祝いをする。
- ・物事を最初に神々にお祈りする。

<地域によって異なる多種多様なインド舞踊>

北：宮廷舞踊カタック

西：民俗舞踊ラジャスターンダンス

東：曲線的で優美なオリッシー

南：直線的でダイナミックなバラタナティヤム / 男性が演じる演劇舞踊カタカリ
など

<南インド古典舞踊バラタナティヤム>



- ・南インド・タミルナードゥ州チェンナイを中心に盛ん。
- ・ナティヤ・シャーストラ（舞踊と演劇の理論書）に基づき演じられる。
- ・インド古典舞踊の中で最も古い舞踊。
- ・神の召使い（デーヴァダーシ）と呼ばれる巫女によって神前で踊られていた奉納舞踊を起源とする。

<舞踊のお稽古について>

- ・習い事の一つ。日本では子供が幼い頃からピアノを習うようなもの。
- ・神々に祈りを捧げ、大地に触れて挨拶、師匠の足元に触れて挨拶。それから、お稽古が始まる。
- ・女性はお稽古用の幅の狭い綿のサリー（幅83cm、長さ500～530cm）を着用。
- ・男性はドーティーと呼ばれる綿の布（幅100cm、長さ430cm程度）を着用。

<本番衣装と装身具、舞台の様子>

- ・2時間は欲しいメイクアップ・着替えの時間。
- ・衣装はシルクのサリー、ゴールドが主体の装身具。
- ・足には鈴（グングル）。
- ・女性の手足の指先は染料で赤く染める。
- ・舞台上手前方に舞踊の神ナタラージャ（シヴァ神）を祀る。
- ・舞台下手に舞踊の伴奏者。
- ・1人で数曲1時間半程踊るソロ舞踊の形式が主。デュオ、群舞、舞踊劇も。

<グル・プルニマの日>

インドの暦にある師匠に感謝する日。

この舞踊に魅了された世界中の人々がインド舞踊を学びに渡印しています。楽譜のない舞踊、師から伝承され、3000年という歴史を経て、今なお存在するインド舞踊です。日本、インドの枠を越えて世界の宝として大切に受け継いでいきたいと思っております。

私がインド舞踊を始めてみたときの衝撃、一歩踏み込んでみたときの心のときめき、そして喜びを多くの方々と共有できれば幸いです。

楽しみ方は人それぞれです。魅力いっぱいのインドを紹介しながら「誰でも楽しめるインド舞踊！」目指して、今後とも精進して参ります。

この度は貴重な機会をいただきまして、誠にありがとうございました。